

人間ドック健診施設機能評価 Ver.4 総合評価

施設名： NTT 東日本関東病院予防医学センター

受審施設の概要

NTT東日本関東病院予防医学センターは、東京都品川区にあり、JR五反田駅から徒歩10分程度と交通アクセスはよい。2002年に病院併設型として開設され、当初は生活習慣病予防健診なども受け入れていたが、2019年度から人間ドック専用施設となっている。

人間ドックは健康管理棟の2階と3階で実施されている。病院と連携した運営体制および検査の実施体制が整備されており、各専門医が配置されている。元々が企業病院という成り立ちもあり、現在も全国のNTT関連企業の受診者が多い。5年毎に目標を設定した計画的な運営がなされており、受診者数目標の達成やドック専用内視鏡室の設置等の成果が見られる。2020年以降は、受診者数の更なる増加やゲノムドックの開始、健診システムの更新等を目標としている。

年間の受診者数は、一日ドック約12,000人、二日ドック約2,800人、その他の健診約17,000人を実施している。

2006年に本機能評価の施設認定を取得し、今回が3回目の更新審査である。

第1領域 理念達成に向けた組織運営

病院とは別に予防医学センター（以下センター）の理念と基本方針が定められ、ホームページやパンフレットに掲載されている。

個人情報保護に向けては、個人情報保護方針が明文化されている他、「患者様等個人情報管理マニュアル」を作成し周知している。理念、基本方針、個人情報保護方針は、センター内でも掲示しているが、サイズが小さくやや分かりにくいいため、掲示方法の工夫が必要と思われる。

就業規則等各種規程は、病院で一括管理され、定期的に改定もされている。職業倫理については、「NTTグループ企業倫理憲章」を制定し、院内ホームページで職員に周知している。

中期経営計画・年度事業計画は、院長が各部門と今年度の達成状況や次年度の取組みなどをヒアリングして策定しており、健診部門の事業計画も含まれている。年度当初には院長講和が開催され、事業計画を施設全体に周知している。事業の進捗状況などは月次経営分析報告書により月別管理しており、部長会議で報告されている。

職員の体制は、健診専任医師が人間ドック健診専門医、人間ドック認定医を取得している。医師以外も専門資格を有しているスタッフが健診に従事している。病院組織内においてセンターの位置を示す組織図はあったが、センター独自のものは無く、センターの各部門の責任者や関連性など分かりにくいところもあり、独自の組織図の作成を検討していただきたい。

教育体制については、病院と連携し年間計画に基づき充実した形で研修を実施している。院内ホームページやeラーニングを用いるなど周知や伝達方法は工夫している。部内の勉強会で内容や参加者が不明瞭なものがあり、記録の残し方は

改善の余地がある。

医療安全管理体制については、病院の委員会にセンターのスタッフも参加している。マニュアルも整備されている。インシデントの事例は報告後すぐに検討され、対策が講じられている。予防医学センター会議でも報告周知しているが、分析や改善の記録の残し方にやや検討の余地がある。

情報の管理体制は、NTT本社や病院のシステム担当者から定期的にセキュリティ監査を受けており、指摘事項は改善されている。サーバー室への入退室管理やパスワードによる健診システムへのアクセス制限等、適切である。

高齢者や障がい者等、配慮が必要な受診者への対応については、センター内の段差が無いようにスロープを用いるなど工夫されている。車椅子利用者や視覚障がい者などに対しては個別対応し、控室に案内している。必要な場合は、各検査場所にアテンドしている。

外国人受診者については、病院内の案内は日本語、中国語、英語で表示している。中国の受診者に対しては、中間業者と契約があり、年間60人ほどの受診がある。中国語や英語の間診票や検査結果表を作成しており、検査手順や内容の説明も翻訳されている。受入れ体制が明確に共有されており評価できる。

第2領域 受診者中心の良質な健診の実践

予約・受付の業務については、受付会計は業務委託され、マニュアルも委託業者が作成して随時改訂されている。改訂記録はあるが、作成者と承認者が同一で、センターのスタッフの確認状況が記録上、不明瞭だった。会計は病院側で実施しており、ダブルチェック体制もある。四半期ごとに未収の確認をしており、連絡等の対応をしている。部長会で月次実績報告、分析がされている。

人間ドック学会が提示する基本検査項目は全て実施されているが、血圧測定が1回のみである。結果報告書には2回分と平均値の欄があるので改善を望む。また腹部超音波検査は案内や報告書に観察臓器が記載されることを望みたい。

眼圧検査を臨床検査技師が行っており、医師・看護師・視能訓練士等の適切な資格者の実施を検討されたい。

受診環境は、受診者数に見合ったスペースが確保されている。検査は個室で行われており、血圧測定や視力検査等は適切なパーティションがされている。但し、受付カウンターには衝立等がなくプライバシーへの配慮から更なる工夫が必要である。病院施設を使用する内視鏡検査は健診専用の内視鏡室があり、MRI検査は病院利用者と検査時間を別にする配慮がされている。

受診に関する事前の情報提供は、ホームページや事前送付資料に検査順まで記載され分かりやすい。問い合わせへの対応方法もマニュアルにまとめられている。医療面接は、保健師・看護師により採血や身体計測等と並列して行われており、受付で体調不良や注意が必要な疾患等が確認された場合には健診の最初に行われている。得られた情報は健診システムに入力し、アレルギーやVVR等がある場合には印を付け、すぐにわかるようにしている。内視鏡やMRIの同意書は事前資料に同封し、健診当日の医療面接で最終確認しサインを得ている。

受診者急変時のマニュアル整備や救急カートの管理はされている。全職員BLS講習を受講しており、定期的な更新も実施している。トイレの個室には緊急呼び出しボタンが設置されているが、男性用の小便器や洗面付近にはなく、検討されると良い。

精度管理体制は適切で、業務マニュアルが整備されている。病院とセンター担

当者が出席する精度管理担当者会議が定期的開催されている。外部・内部精度管理は実施されており、外部精度管理の結果が悪かった場合の検討も適切に行われている。今後、画像検査の外部サーベイへの参加に期待する。

判定については、基本的には人間ドック学会の判定区分に準拠しているが、一部病院の基準値を使用している。各診療科と学会ガイドライン等との整合性を取った検討の結果を判定区分として使用している。画像診断は、放射線科専門医と人間ドック健診専門医による二重読影がされている。さらに面接医による最終確認後に説明がされている。

医師による結果説明は、一日ドック、二日ドックともに100%実施されている。血液、尿、主な画像検査、心電図等の生理機能検査の結果が説明されている。診察と同時に結果説明が行われており、一人当たり20分程度かけている。紹介状が必要な場合には原則当日に作成し手渡ししている点も含めて、評価できる。

保健指導は、保健師・看護師・管理栄養士の合計12名が指導に携わっており、医師からの指導ポイント指示の用紙も運用している。指導マニュアルが整備されており、新任者教育の際にも利用され、達成度評価表を指導者が確認している。月に1回程度、看護部教育委員会を中心として保健指導の勉強会が開催されている。しかし、保健指導の実施率は一日ドック0.2%、二日ドック21.3%と低率である。2019年度から30歳と35歳の受診者を対象に指導を実施しており、一日ドック9%、二日ドック30%まで改善されている。継続的な取り組みを期待したい。指導内容は指導ノートに記載し、スキャナで健診システムに保存している。さらに健診システムに保健指導の概要を入力し、次回以降の保健指導に活用している。

第3領域 継続的な質改善の取り組み

受診者の要望を把握する体制としては、以前は年1回程度独自のアンケートを実施していたが、現在は病院と一緒に年2回1週間の満足度調査を実施している。また、投書箱を更衣室に設置しており、病院内の投書箱に入っているセンターへの意見も含めて、予防医学センター会議で検討されている。業務改善やサービス向上に活用しており、最近の改善事例として昼食のメニュー改定が行われていた。但し、受診者への周知は行っていないので今後掲示等を行うことは課題である。

フォローアップについては、マニュアルが整備されている。要精検率はほとんどの検査で10%未満であり適切である。精検受診率は平均で68.8%である。精密検査となった受診者には原則当日に紹介状を出している。併設病院を受診する際には医療連携室が窓口となり優先的に外来予約が取れる体制をとっている。また急ぎの場合には面接医が連絡し、さらに早く受診ができるようになっている。

血圧・糖尿病関連・脂質関連の項目について、要治療のフォローアップは併設病院と連携を取っている。追跡検査・経過観察となった受診者の経過把握は、返信がない受診者に3ヶ月後・6ヶ月後に手紙を出すなど、把握に努めている。受診者の多くが全国のNTT関連企業の従業員であり、受診者の居住地域への紹介となることも多い。紹介先や連携病院を選定する難しさもあるため、やや受診率は低率であり今後の課題である。受診率向上のためのさらなる取り組みが期待される。

健診結果の分析は、年2回臨床検査適正化委員会を開催し、検査精度について検討が行われている。日本人間ドック学会の調査、がん統計に参加している。日本人間ドック学会や他の学会での発表、論文投稿も定期的に行っている。

受診者に向けた有用な情報提供としては、検査の見方として冊子「人間ドック健康管理」を作成し、受診者に渡しており、ホームページには健診の統計も掲載

している。定期的に病院とともに院外誌を発刊し、また公開講座も開催している。

健康経営にむけた取り組みとしては、NTT関連会社のヘルスデータバンクに健診データを提供し、会社、事業所ごとに受診結果や肥満率、禁煙率など分析し報告している。

業務改善の体制としては、全職員が年度当初にチャレンジキャリアシートを用いて目標を作成し、3ヶ月毎に上長とヒアリングをしている。改善事項などの吸い上げも行い、業務改善に取り組んでいる。

前回の機能評価の課題に対する改善としては、開業医との連携のために懇談会を実施し、フォローアップ体制の強化のため再検査未受診者への受診確認体制の確立が図られている。2019年度より保健指導体制も整備され、また衝立などを設置してプライバシー確保に努めている。

総括

人間ドックの充実にむけて、定期的な改修やシステム更新を行い、受診者数の増加や健診の質向上に努めている。また、その方針も院内ホームページなどを利用し、スタッフに周知している。センターの運営管理は病院とよく連携が取れており、専門資格を取得している人員も充実している。

総合的見地から、人間ドック健診施設機能評価の認定（更新）に値すると判断する。

審査日 2020年3月27日

認定承認日 2020年3月27日